



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：ターリバーンが春期攻勢開始を宣言

ターリバーンは、「イスラーム首長国指導評議会」名義で春期攻勢「ハイバル」を開始すると発表した。攻勢の詳細について、ターリバーンは声明で以下の通り述べた。

1. 2014年5月12日午前5時より、新たな攻勢「ハイバル」を開始する。この名称は、預言者ムハンマドがイスラーム暦7年にイスラームの敵に対して行った攻勢にちなむ。
2. 攻撃対象となるのは、第一に外国の占領者、様々な名称の占領者のスパイ、占領者の業務を請け負う軍人・民間業者、いかなる名称であろうとも占領者と共に働く者、占領者の通訳、占領者の行政職員、占領者の兵站要員。第二の攻撃対象は、カブールの政権の高官全員、政府や議会の構成員、治安職員、国防省・内務省の外国人支援将校、法務省の（被告）召喚職員、最高裁の判事、国家治安局のスパイである。
3. 攻撃対象となる場所は、外国占領軍の軍事拠点、外交使節と車列、占領者を支援するアフガンの傀儡どもの軍事拠点、国防省・内務省・情報機関・民兵の施設と車列である。

ターリバーンは、毎年春期攻勢を実施するとの声明を発表しているため、今般の声明もそうした通常の動きに沿ったものである。ターリバーンは2013年にも、同年の4月28日より攻勢を開始し、「集団殉教作戦が占領者の基地、外交施設、空軍基地でより正確に、組織的に行われる。同様に、あらゆる戦術的手段を利用して外国占領者の殺傷・捕獲を行う」と発表している。その一方で、今般の声明が「占領者のスパイ、請負業者、通訳、兵站要員」なども攻撃対象として列挙している点に注目すべきである。どのような人々がこうした攻撃対象とみなされるかはもっぱらターリバーンの側の判断に基づくため、軍人や外交官でない援助団体・NGO・報道機関の要員であってもターリバーンの判断次第で攻撃対象となる恐れがある。ターリバーンは、報道で大きく取り上げられるような著名施設への襲撃のほか、アフガン各地で様々な軍事活動を行っているため、首都のカブールだけでなく地方部でも外国人・機関が襲撃される危険性もある。また、攻撃対象を決めるのはターリバーンであるため、アフガンで活動する個人・団体が自身の活動をどのような活動と考えているかなどの主観や自意識とは無関係に攻撃対象にされることにも警戒が必要である。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799